

福島第一原発事故から 10 年

—今でも続く放射性物質の汚染—

2011年の震災・原発事故から10年になる。東北地方以外の方は、もう忘れてしまったかもしれない。原発事故のあった福島県でも県民の関心が薄れている。

さて、私の事を書く。この10年は、人生の中でも、特に時間が経つのが早かった。今でも当時のことが走馬灯のようによみがえる。当時の記憶は、多く、しかも鮮明である。特に、福島市渡利に住んでいた2011年3～7月は記憶が鮮明である（7月末に一時退避先の猪苗代に完全に転居）。当時を思い返すと、放射線の知識がないため、一日一日が不安で「何が何だか分からなかった」ために緊張状態が続き、記憶が残ったのではないかと考えられる。この不安の中で私は「放射性物質の汚染調査をするしかない」と決意した。放射線測定器を入手するまで、福島県立医大附属学術情報センターに通い、専門書を読み漁った。その後、放射線源の測定器を入手し、汚染土壌を中心とした調査を開始した。

原発事故の教訓は「平時から、自分の置かれた地勢などを把握し、緊急時のために備えておかなければならない」である。要するに、知識を蓄え、事態が発生したら柔軟に対応できる頭を作っておかなければならないのである。また、機材も普段から用意し、緊急時に仕えなければならぬ。易経の「治に居て乱を忘れず」である。

2011～2020年までの調査で記憶に残っているのは、原発事故後に福島県内各地に見られた高い放射線を出す「黒い土」である。2012年4月30日に採集した飯舘村の黒い土は1430万Bq/kg（小出裕章氏測定）であった。また、私は同年5月19日、長泥一赤宇木の峠（国道399号）で30 μ Sv/h以上（地上1m、TCS-172B）を測定し、この事実を飯舘村役場（避難先：旧飯野町役場）に伝えた。その2日後、長泥一赤宇木の峠が全国にテレビ中継され、7月になり、長泥がやっと立入禁止になった。これらの事実および経過から、飯舘村では、自分の村の汚染状況を把握していなかったと考えられる。情けない話である。

これらの私の思いは、2020年5月公開のネット配信ニュース『「徒歩の調査」から見た福島第一原発事故被曝地からの報告（前・中・後）」に書かせていただいた。

さて、この原稿が印刷される頃には「2019年の調査論文」2編が公表されている。2020年1月開催予定の名古屋大学のシンポジウムが自然消滅し（コロナ騒動

とは無関係）、発表を他の学会に求めたため遅くなってしまった。2019年の主要な調査は「二本松市市街地南部の調査」であった。調査は25日、測定は5921地点、空間線量率（地上1m）は0.06～2.56 μ Sv/h、平均0.28 μ Sv/hであった。特筆すべきは、1 μ Sv/h以上が22地点、2 μ Sv/h以上が4地点あったことである（公的除染は2018年に終了）。また、平均値が、二本松市がHPで公表している値と私の調査の値とでは大きく違うことである（論文参照）。さらに、この調査で高い放射線を出す土「黒い土」が見つかった。私が最後に黒い土を確認したのは2014年の郡山市の調査であり、二本松市で黒い土を発見した時には大いに驚いた。この他、継続調査の本宮市と蓬田岳の調査も行った。本宮市は、測定2614地点、空間線量率（地上1m）は0.06～1.12 μ Sv/h、平均0.216 μ Sv/hで、1 μ Sv/h以上は4地点であった。蓬田岳は、測定115地点、空間線量率（地上1m）は0.05～1.09 μ Sv/h、平均0.28 μ Sv/hで、1 μ Sv/h以上は3地点であった。両者とも線量率が徐々に低下している。

また、今回の論文では、ページ制限（名古屋大学の紀要では6ページ）が緩和されたので、今まで書けなかった「放射線測定器の問題」も書いている。空間線量率を測定する器械は、原発事故後、多種多様なものが、国内でも新たに作られ、また輸入もされた。これらを、実際に汚染地域で使用すると、機種ごとに表示値が違っているのである。このため私は、所持している測定器を放射性物質汚染地域に持参し、段ボール箱の上に並べて比較した。基準は公的機関で使用している日立製TCS-172B（171）である。この中で、表示値がTCS-172Bと「同じ器械」「違う器械」を区分し、実際の調査で使える器械を選別した。また、ガイガー計数管式の器械は、原理的な問題と、測定に時間を要することから、調査には使えない。感度から言えば、調査に使えるのは、大きいシンチレーターの付いた機種である。また、実売10万円以上の機種でも、表示値がTCS-172Bとかけ離れている器械があった。

これらの論文は、京都大学教授吉田英生氏のHP「wattandedison.com」に全て掲載されている（<http://wattandedison.com/Chiba2.html>）。ネット検索「千葉茂樹 原発事故」でもヒットする。興味がある方はご覧いただきたい。（福島支部 千葉茂樹）

— そくほう No.773 —

2021年2月1日発行（毎月1回1日発行）

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

発行 地学団体研究会

印刷 株式会社アイネクスト

TEL 029-836-5765 FAX 029-836-5766

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-24-1 八大ビル301号

TEL 03-3983-3378 FAX 03-3983-7525

E-mail chidanken@tokyo.email.ne.jp

<https://www.chidanken.jp>

郵便振替 00160-2-144318 地学団体研究会